

# 第三章活用事例

中学校版「心みつめて」 p.122 ~ p.123  
「目標に向かう強い心を大切にしたい」

## 中心資料

中学校 読み物資料とその利用 平成三年三月 文部省  
「私と部活動」

### 【主題名】

強い意志

1-② 「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。」

### 【ねらい】

目標に向かって希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつこととする意欲を養う。

《ねらいとする道徳的価値》「『心みつめて』中学生の時期は、好きなことや得意なことに向けて意欲的に取り組むことが大切です。一方で、困難に直面するときに簡単にあきらめてしまったり、理想と現実との違いに悩んだりしてしまう場面も見られます。自分を振り返らせながら、目標をもって生きることの大切さについて考えさせ、自分の目標の達成に向け強い意志をもって努力していかうとする意欲を育むことが大切です。」

## 導入



「これから読む資料に登場する人物について説明します。」

○資料に登場する人物を紹介して、資料への導入を図る。

○教師が「私と部活動」を範読する。



「Kと対戦し負けてしまったとき、『ぼく』はどのような気持ちだっただろうか。」

○「ぼく」のなげやりな態度に着目させ、困難にぶつかり目標をあきらめてしまおうとしている様子を捉えさせる。

### 中心発問



「新人戦に負けて涙をこらえているKの姿を見て、『ぼく』はどのようなことを思っただろうか。」

○全力を出し切りながらも試合に勝てず、悔しさをこらえているKの姿から、目標に向かって強い意志をもって進もうとしたKと、努力することをあきらめてしまった自分の違いに、「ぼく」が気付いたことを捉えさせる。

《評価》 Kの姿を通して「ぼく」が自分自身の心の弱さと向き合い、入学したときの目標やその達成に向けて努力してきた自分を振り返りつつあることに気付けたか。

## 展開



「朝練習でKのサーブを受けているとき、『ぼく』はどのような気持ちだっただろうか。」

○Kに試合で負けたときの「ぼく」のなげやりな気持ちとの違いに着目させ、目標に向かって再び強い意志をもって進み出そうとしている「ぼく」の心情を捉えさせる。



「今あなたがもっている目標は、目標達成のためにしていることは何ですか。」

○「心みつめて」 p.122 ~ p.123 「目標に向かう強い心を大切にしたい」を活用し、今もっている目標とその達成のためにしていることを記入させる。

○日常生活の中で小さな目標の達成を積み重ねる中で、人生の理想や目標を達成しようとする強い意志が養われ、生きることへの希望も生まれてくることを捉えさせる。

## 終末

○「心みつめて」 p.123 「日々の努力が大切だ！」「意志あるところに道は開ける」を取り上げ、教師が自分の経験などを交えた説話をすすめる。

## 板書例

### 私と部活動

#### 登場人物の紹介

Kと対戦し負けてしまったとき、「ぼく」はどのような気持ちだっただろうか。

- もう試合には出られないのだから、練習なんてどうでもいい。
- 県大会出場なんて、自分にはもともと無理だったんだ。
- このまま続けていても、きっとこれ以上強くはなれない。もうこのままテニスをやめてしまおうか。

新人戦に負けて涙をこらえているKの姿を見て、「ぼく」はどのようなことを思っただろうか。

- Kはこれまで本気で頑張ってきたのだ。それに比べて、自分はなんて情けないだろう。
- 自分はどれだけ本気でがんばってきただろう。本当に全力でやってきたといえるだろうか。
- テニスに対する姿勢も気持ちも、自分はKに負けていたのだ。

朝練習でKのサーブを受けているとき、「ぼく」はどのような気持ちだっただろうか。

- Kに負けないくらい、自分もがんばる。
  - これまでの弱い自分から変わってみせる。
  - 自分もまた本気でがんばり始めたことを、自分のプレーでKに伝えよう。
  - 来年の県大会には、必ず出場して試合に勝ってみせる。
- 今あなたがもっている目標と、目標達成のためにしていることは何ですか。

- 一年間、全ての漢字テストで満点を取ると決めて、毎日欠かさず漢字の勉強を続けている。
- 運動会のハードル走で1位になることを目標に、毎日、朝と放課後に練習をしている。本番では、自己ベストの記録を出したい。
- 委員会活動で、みんなから信頼される委員長になりたい。そのために、自分の分担任以外の活動にも積極的に関わったり、後輩にいい例を教えるようにしている。

《評価》 目標に向かって希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつこととする意欲を養うことができたか。